

事例３ ドローンを活用した災害時の情報収集訓練

(四国森林管理局 愛媛森林管理署、嶺北森林管理署)



- ・高知県高知市 四国森林管理局
- ・訓練本部での現地映像確認
(令和7(2025)年10月)



- ・愛媛県西条市^{さいじょう}
- ・現地の空撮映像
(令和7(2025)年10月)

山地災害の発生時には、地域の安全確保や早期復旧のために、被害状況を迅速に把握することが重要です。四国森林管理局及び愛媛森林管理署、嶺北森林管理署では、令和7(2025)年10月に、高知県及び愛媛県の7市町村と合同で災害時の情報収集訓練を実施しました。

訓練では、森林管理署職員が民有林現場においてドローンで空撮した映像を、訓練本部を置いた森林管理局や市町村の各庁舎へ、衛星通信によりリアルタイムで配信しました。森林管理局及び市町村の担当者は、配信された映像を見ながら、現場のドローン操作者に対して撮影箇所に関する指示を行いました。また、大容量ファイル転送システムにより、空撮した映像データ等の成果物を、現場と庁舎との間で迅速に送受信する訓練等も併せて実施しました。参加した市町村からは、「地上からでは被害の全容把握が難しかったような箇所も、ドローンであればよく見えることが分かった」などの感想が寄せられ、被災状況を把握する手段として有効であることを確認しました。

今後も、山地災害発生時の初動対応の強化に向け、地方公共団体と連携して継続的な訓練を実施し、民有林を含めた地域の安全確保や円滑な災害復旧に努めていきます。